

## 実朝まつりに参加して

去る 11 月 23 日（勤労感謝の日）秦野市で開催された実朝まつりに「鎌倉三日会」として新村会長、渋谷副会長、荒井氏、斎藤氏、と私、田中（史）の 5 名で参加させていただきました（他に中村氏が「古都鎌倉を愛する会」の代表として参加）。当日は午後から雪の天気予報でとても寒い日でしたが、実朝まつりへの参加は初めてのことであり興味をそそるものでした。

秦野市東地区にある実朝公御首塚の前で近隣にある実朝公ゆかりの金剛寺の住持の読経が行われ、献歌、献句、等のセレモニーが粛々と取り行われました。御首塚の近くの田原ふるさと公園では甘酒、焼き鳥、等種々の模擬店が開かれ、和太鼓の演奏、稚児武者行列などもあり多くの市民が祭りを楽しんでいました。

式典終了後、東地区の実朝まつり主催の役員の方々との昼食会があり地元の食材を使った手料理を御馳走になり懇親を深めることができました。鎌倉三日会がこの実朝まつりに参加するようになったのは 7～8 年前からとのことでした。来年は実朝まつりも 30 回を迎えるうえ、実朝公の 800 年忌にもあたるので、来年はより盛大な祭りになることが期待されます。

実朝まつりに参加するまでは、鎌倉から遠く離れた秦野の地で実朝まつりが行われるのを不思議に思っていました。実朝が甥の公暁に八幡宮で暗殺されたことは広く知られていますが、その首が秦野に埋葬されていることを始めて知りました。インターネットで調べてみると、実朝を暗殺した公暁は実朝の首を食事の間も手放さずにいたということですが、程なく、北条氏からの公暁追討の命を受けた三浦義村の家臣に討ち取られたということです。しかし、公暁が所持していたはずの実朝の首は見つからず行方不明であったところ、三浦の家臣「武常晴」がこれを探し出し葬ったのが秦野の地であったということのようです。

歴史の面白さを教えてくれた実朝まつりでした。

田中史郎